

指導の形態 教材等	自立活動「最後まで勉強しよう」 ～注意の持続の工夫～	障がい種 等	通級指導教室 LD・ADHD
--------------	-------------------------------	-----------	-------------------

授業の概要やよさ

- ・情緒が不安定で、授業中でも話したり動き続けたりする児童に、最後まで課題に取り組む指導を行う。
- ・障がい特性に配慮し、本人の得意な面を生かす工夫を指導に取り入れる。

児童生徒の様子

- 小学校3年生A
 - ・自閉症スペクトラム
 - ・常に追い立てられるようにずっと話したり、動いたりしている。
 - ・元気よく活動していたかと思うと些細なことで泣きじゃくるなど、情緒が安定しにくい。

目標

- 自立活動
 - ・席について最後まで課題に取り組むことができる。

支援のポイント

○1単位時間の活動の仕組みの工夫

授業に見通しを持って意欲的に取り組めるように！

- 活動の仕組みを固定化する。
予め A 児に必要な課題をいくつか用意しておき、その中から A 児が選択することで1時間の授業プランを立てる。
- 気持ちの切り替え
好きな課題の時、次の課題に取りかかることが難しい。そのため、タイマーをセットしておきブザーがなったら次の活動を行うようにする。

○働きかけ方の工夫

- 常にゆっくりしたペースで関わったり、A 児が答えやすい質問をしたりして、活動のペースが落ちるよう配慮する。
- 書くことが苦手だが、聞いたり、話したりすることは得意なので、視覚情報とともに必ず聴覚からの情報も入れる。

常に話したり、動いたりする A 児なので

A 児の得意なところを生かして

魚の漢字を覚える場面で…

